

ジオパーク現地審査（ジオガイド）

こんにちは。わたしは姫島中学校生徒会長の〇〇です。同じく生徒会書記の◇◇です。わたしたちは2年間、姫島の成り立ちについて教科の授業や総合的な学習の時間などで勉強してきました。初めて知ったことや興味を持てたことが数多くあり、ジオ学習を通して、姫島の魅力やすばらしさを再認識するとともに、ふるさとに誇りが持てるようになりました。今日はわたしたち2人が姫島中学校を代表して子どもジオガイドとして観音崎の説明をいたします。

姫島ジオパークのテーマは「火山が生み出した神秘の島」です。島内には、5つの火山の跡、7つの噴火の跡があります。そして、ここ観音崎は、城山火山地域に含まれ、国の天然記念物に指定されている黒曜石の産地です。また、正面に見える鳥居を中心とした場所が、姫島で最も規模の大きい浮洲火口です。

ここ観音崎の海岸では、干潮になると黒曜石を実際に手に取り、観察することができます。わたしもジオ学習に参加して初めて、黒曜石に板状、葡萄状、塊の3種類があることを知りました。時間があれば、自分で3種類を探し、自分の目で確かめて下さい。

では、次に観音崎火口をご案内します。

展望台にお上がり下さい。正面下に見えるのが観音崎火口跡です。とてもきれいで7つある火口跡の中で最もはっきりと見ることができます。わたしはこのきれいな風景と沖縄を思わせる青い海が大好きです。向こう側の岩は、火口壁が残ったもので、斗尺岩と呼ばれています。

では、次に黒曜石の断崖をご案内します。（先へ進む）

ここが高さ40m、幅120mに及ぶ黒曜石の断崖です。瀬戸内海とは思えない荒々しい絶景で、初めて訪れた人は必ず息をのみ立ち尽くします。

さて、姫島の黒曜石は色が黒ではなく白っぽい乳白色で、露出して大きな崖をつくっています。色、露出状態ともに全国的に他に例がなく珍しいそうです。火口の中に見られる赤い岩は、火山性の岩で赤馬と呼ばれています。岩と言っても砂と小さな石が固まったものです。また、この姫島の黒曜石は石器の材料として、旧石器時代から縄文・弥生時代において、東九州を中心に中国地方や四国地方など瀬戸内海西部地域で広く使われていました。

ところで、1番先端にある千人堂は姫島七不思議の1つで、大晦日の夜、鬼に追われた善人を千人かくまうことができるといういわれから、この名があります。

以上で観音崎の説明を終わりますが、今日から明日にかけて「姫島のいつもの風景」をめぐり、わたしたちの暮らす姫島のすばらしさを実感していただければうれしいです。わたしたちも、理科や社会などの教科の授業や総合的な学習の時間で、地質や火山などの学習をさらに深めていきたいと思っています。今日はありがとうございました。